

2023年度第5回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

1 日 時：2023年10月10日（火） 午後8時00分から

2 方 法：ZOOMアプリを媒介にしての遠隔会議

3 議決権のある理事：9名

出席者：座間直壯、雨谷逸枝、清田義昭、小池信彦、田中ヒロ、中川恭一、堀 渡、

欠席者：齊藤誠一、保坂一房

(1) 第1号議案 会員の動向について【報告】

・2023年10月10日（本日）現在

正会員：個人80名 2団体 賛助会員：個人28名 2団体 計：個人108名 4団体
（合計112名・団体） 前回と変わらず

(2) 第2号議案 第41回多摩デポ講座「都立中央図書館の閉架書庫、資料保全室の見学、および保存の現状と計画を聞く会」の実施結果について【報告・討議】

- ・8月10日（木）に、東京都立中央図書館の見学会を行った。12人が参加、実施時間は午後2時から4時30分ほどだった。
- ・都立図書館の受入定員が12名だったが、参加者は、会員および図書館員から8名。（うち多摩地域の職員は3市3名）、理事・事務局から4名が参加した。
- ・施設見学会では、以前はカビが発生し臭気があった書庫の管理状況が改善されているらしい様子や整理が行き届いているらしい様子が見えた。書架はぎゅう詰めではなかった。資料保全室ではベテラン職員がいて、丁寧に話を伺うことができた。
- ・また冒頭で説明のために部屋に着席し、都立図書館の除籍と保存の現状を具体的に聞くことができたことが重要だった。
- ・約20年前の「図書館再編計画」の中で作られた「蔵書は原則30年の有期保存とする」方針は、その後、大型書庫を持った新都立多摩図書館ができたことで、まだ実行されずに来ているとのことだった。
- ・新都立多摩ができたので、置ききれない書庫資料を預けていた外部倉庫を廃している。都立多摩の書庫の一部を「都立図書館収蔵庫」として運用している。しかし市町村との共同書庫に回す分はない。
- ・見学会を案内してくれた都立中央図書館の職員の方とは、定員の関係で今回は来られなかった希望者がいるので、秋になったら再度、見学会を企画したい。受け入れてほしいとお願いしてきた。
- ・都立図書館のこの間の毎年度の除籍の実態はどうなっているか。都立図書館は「除籍数」を自館の『事業概要』等の公開資料の中では相変わらず公表していない。しかし調べていくと、日本図書館協会発行の『日本の図書館』の中には、調査項目に答えて2003年度から記載がある。その毎年度の記載から分かる数値をもとに、第5号議案と

して議論を行った。

(3) 第3号議案 第1回多摩地域ライブラリアン講座の進捗状況について【報告・討議】

- ・受講者の募集を8月末まで締切を延長した。その結果、12人募集のところ10人の応募があり、この10人を受講者にして9月1日から講座を始めている。
- ・受講者の内訳では、入職したての20代の新人から60代のベテランまで、年齢も図書館での経験年数でも、幅の広いメンバーが集まった。
- ・9月から、予定通り10のオンデマンド講義を配信し受講者の視聴を促している。また、ワークショップの説明会をZOOMで、10月1日から6日までに3回行った。
- ・今後は、11月初旬から受講者を3班に分けてZOOMによるワークショップを実施する。その中で、各自が自分の図書館で次年度以降に提案・実施したいと考える新規事業企画のプランをパワーポイントを使って発表し、質疑やアドバイスを受けて肉付けしていく。それをオンライン講座の最終日（1月29日）に発表し、終了レポートの執筆に入っていく。
- ・まだ受講者からの講座受講の感想や反応が返ってくる時期ではないが、この説明会の中で、受講者の方に少し触れることができた。どなたも意欲的なようだ。
- ・理事、事務局員の方にはGoogle Classroomにアクセスできるよう準備中である。
- ・受講者からは既に全員から受講料の振り込みがあった。12人の受講の想定で予算を組んだが10人に留まったので、多摩デポ会計からの補填が必要となる。

(4) 第4号議案 府中市の蔵書データへのISBN遡及入力事業について【報告・討議】

- ・図書館の目録データのうちISBN（国際標準図書番号）が未記載のものに、ISBNを推定して付与できないかという研究・および作業を(株)カーリルと共同して行っている。
- ・協力してくれる府中市立図書館のISBN未記載の同市の目録データを受け取り、(株)カーリルが他の図書館の蔵書目録、出版書誌のビッグデータからISBNを機械的に推定してくる。そのうち確度の高いと思われたものを、TAMALASを使って人力で、理事、事務局員で検証してきた。
- ・6月末には、最初に行うように求められていた地域資料の推定の結果をお渡しした。
- ・第二弾で、児童書の推定結果の検証を始めている。同市の蔵書のうち、発行年が1983～1993年の児童書で、同市で除籍対象にはしない9類（絵本含む）は、全件で13218件、うちISBN未記載のものは2668件。それを3種のデータベースに突合し、推定した。確率的に高い確度で推定できたと思われる830件を、TAMALASを使って人力で、複数の目録の内容を見比べて確かめていく。
- ・今回からは作業は、会員等にボランティアを募って、公開の事業にしていく。そのために時間をかけて作業マニュアル等の整備も行ってきた。
- ・10月9日を締切にして会員MLで募集したところ、10人の応募があった。全員に作業に参加してもらうことにした。今週中にZOOMで作業説明会を行い、作業を開始してもらう。

- ・本日、応募者に対して「事務連絡No.1」を送っている。
- ・作業は同じデータを違う人が再度検証する、ダブルチェック方式で行う。1回目の作業締切を11月1日（金）、2回目の締切を11月18日（土）に予定している。
- ・今後、この事業を継続したい。府中市以外の図書館にも呼びかけて依頼があり、それに応えていきたい。それにより、TAMALASの有効性が強化され、多摩地域の図書館界で目録の整備への関心が高められていく第一歩として、この作業開始をとらえたい。
- ・時期的には作業の進行中になるが、『多摩デポ通信』次号の紙面で取り上げる。またこの事業は、来年2月7日（水）の2023年度多摩地域公立図書館大会での講演でも話題にしていくことになるだろう。

(5) 第5号議案 東京都立図書館の資料保存の現状把握について【報告・討議】

- ・8月の見学会の説明で得られた情報をもとに、ここ20年ほどの都立図書館の受入と除籍の実態を調べてみた。
- ・機械的な定量的な除籍は行われていない。除籍がゼロの年度もある。新都立多摩に移送し、蔵書を維持していることは間違いないようである。
- ・資料費（図書費）予算も約20年前の数年間の極端な縮減状態を脱し、一定金額を維持しているようだ。
- ・こうした分析をもとに、以下の点が話された。
- ・都立図書館には、新たな説明を聞く会を設定する必要があるのではないか。
- ・出来れば、都立図書館が（単独で）有期限の資料除籍を始めないこと、単独で有期限保存の方針を決めていることを再考すること、市町村と蔵書の保存と除籍の共同の研究を始めるよう、申し入れていく必要があるのではないか。
- ・多摩デポのその動きには、多摩地域の館長会に同調してもらおうとか、理解しておいてもらう必要があるのではないか。

(6) 第6号議案 今後の事業予定について【報告・討議】

- ・8月に実施した、都立中央図書館の書庫見学と保存の実情を聞く会を、10月下旬から11月上旬に、再度、会員や多摩地域の図書館職員に呼びかけて実施したい。できれば図書館長有志にも参加してもらい、都の保存方針と実態を聞いてもらいたい。そして、保存方針の再検討の申し入れにつなげていってはどうか。
- ・前回の理事会で確認された、津野海太郎氏に多摩デポ顧問を継続していただくことは、理事長からコンタクトを取り、了解を得られた。津野氏に具体的に登場していただく企画を用意する必要があるが、まだ具体的な案を用意できないでいる。理事長、事務局長で津野氏を訪ね相談し、第42回講座の企画にできるように進める。
- ・多摩地域ライブラリアン講座、府中市のISBN推定作業など、多摩デポ内では新規事業が動いているが、会員や図書館員に広く呼びかけて行う定例の「多摩デポ講座」等の企画が出せないでいる。宿題である。

(7) 情報交換その他

- ・2023 年度多摩地域公立図書館大会での講演について
 - ・館長会の図書館サービス研究会が担当する分科会に、(株)カーリルの吉本氏と中川理事が講師として出席し、会場に参加する図書館職員や市民を前に、TAMALASの有効性や多摩デポ一括処理システムの実演・紹介を行うことが決まった。2024年2月7日(水)、会場は東村山市立中央公民館。
- ・「多摩デポ通信」第65号の発行について
 - ・10月中の発行を予定している。記事の企画は以下の通り。
 - ・第41回多摩デポ講座(都立中央図書館の書庫見学等)の実施報告、参加者の感想、説明から見えてきた都立の資料保存の実態。
 - ・第1回多摩地域ライブラリアン講座が動き出していることの報告。
 - ・府中市の蔵書目録のISBN未記載データの推定・検証作業がボランティアを交えて始まったことの報告。
 - ・再度の都立中央図書館の見学と説明の会の実施案内。
 - ・他の講座企画などが浮上できるのであれば、できれば入れたい。

【多摩デポ関係記事】

- ・特になし

【共同保存図書館関連論文、記事】

- ・工藤嘉一. みんなで資料保存を考える: 報告書『資料を護り, 未来の利用者へ残すために〜資料の共同保存と除籍を考える〜』の発行について

『ネットワーク資料保存』2023.9, (132), p.7-8.

<https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/hozon/network/NW132.pdf>

- *北海道図書館振興協議会(事務局:北海道立図書館企画支援課)が調査研究チームを作り、令和3~4年度に行った「資料の共同保存と除籍」の調査研究の報告書の内容をチーム座長の工藤氏が紹介している記事。

この北海道の調査は、全国公共図書館協議会(全公図)が発表した『2018年度(平成30年度)公立図書館における蔵書構成・管理に関する実態調査報告書』および、続く『2019年度報告書』で提起された課題を引き継ぎ、北海道の状況をより具体的に調査・分析する必要があると考え、道立図書館、道内市町村立図書館の職員7名が調査しまとめた。報告書は全5章の構成だが、「第3章 先行事例」では、全国の5例の一つとして「多摩デポ」が取材され、紹介されている。

- ・「あいちラスト・ワンプロジェクト」愛知県立図書館の該当書庫が一杯の報道記事(読売新聞 ONLINE 2023/08/24)

<https://yomiuri.co.jp/national/20230823-0YT1T50114/>

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 定例会 日程未定、(Zoom 会議)
- ★ 事務局会議(2023 年度第 9 回) 2023 年 10 月 18 日 (水) 午後 8 時より、(Zoom 会議)
- ★ 次回理事会 第 6 回理事会 2023 年 12 月 13 日 (水) 午後 8 時より、(Zoom 会議)

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として 2 名を選任することを諮り、小池信彦理事、堀 渡理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2023 年 10 月 10 日

議長

議事録署名人

議事録署名人